

第6回 須坂市総合計画審議会 会議録（要旨）

1 会議名

第6回 須坂市総合計画審議会

2 開催日・場所

開催日時 平成22年10月26日（火） 午前10時から午後0時5分

場所 市役所東庁舎第4委員会室

3 出席者

(1) 委員

遠藤 守信会長、小澤 吉則委員、土本 俊和委員、小山 せつ子委員、日向野 靖司委員、勝山 敏雄委員、返町 惇委員、吉池 武委員、太田 哲郎委員、中野 博勝委員、松井 あさ子委員、越 信子委員、黒岩 七女委員、山際 荘一委員

欠席者

石原 洋子委員、神林 清治委員

(2) 幹事

副市長、総務部長、健康福祉部長、市民共創部長、産業振興部長、まちづくり推進部長、議会事務局長、消防長、会計管理者、水道局長（代理：下水道課長）、教育委員会次長

(3) 事務局

政策推進課長、政策推進課長補佐、政策推進課職員

4 配布資料

資料1 パブリックコメント実施後原案への修正対応について

資料2-1 第五次須坂市総合計画（基本構想・前期基本計画）、第三次国土利用計画（須坂市計画）について（答申）（案）

資料2-2 第五次須坂市総合計画（基本構想・前期基本計画）答申

資料2-3 第三次国土利用計画（須坂市計画）答申

資料2-4 須坂市総合計画審議会 意見・要望一覧

資料 第五次須坂市総合計画 進行管理について

資料 第三次国土利用計画（須坂市計画）の長野県との協議経過

5 審議状況（会議事項）

(1) 開会

政策推進課長：

ただいまから第6回 須坂市総合計画審議会を開会いたします。

審議事項までの間、進行役をつとめます。よろしくお願ひいたします。
本日の会議について、
石原委員、神林委員
から、欠席の連絡を受けておりますのでお知らせいたします。
会長より一言ごあいさつをお願ひいたします。

(2) 会長あいさつ

会長：

おはようございます。

寒い冬がすぐそこまで来た季節となりましたが皆様におかれましてお体にお気を付けいただきたいと思ひます。

先週までイタリアに行きまして、地域の皆さんと企業の皆さんとともにベニスに行ってきました。大変驚いたことにGDPをみますとイタリアは3年前に日本を抜きまして、世界第19位となっています。日本は今23位です。一時世界第3位という強い経済活力を持っていた日本があつという間に、落ちてしまいました。非常に明るく陽気なイタリアが19位となっています。

もとも農業国であるイタリアですが、行って見て最近驚いたことに、農業地域を含め社会が豊かで活力があります。国の8割が300人以下の中小企業であり、大企業といえは自動車メーカーくらいしかありません。雇用では日本も中小企業が占める率は76%でイタリアと同程度です。イタリアの産業出荷額の8割が中小企業に対し、日本は5割程度です。つまり、中小企業も頑張っていて、付加価値の高い製品を世界市場に出荷していることがイタリアの活力となっています。

なぜそんなに中小企業が元気があるのか尋ねましたら、中小企業は時代の変化に適応できるサイズで日本の大企業は時代の風に乗れない体質ではないか。しかも、イタリアの中小企業には良い学校を出た技術者がたくさんいて、それが活力となっている。あわせて、地域の行政と連携して良い成果をあげている。

今、グローバル化が行きあたり世界で自立存続すらできない地域が出てきています。強いものが生き残る強者の理論がはびこっていて弱者を駆逐している社会になっています。そうすると、一国一地域は存続すらできない状況になっている。しかし、反省もあり、地域は地域で独自の発展を遂げるべきではないかという理論もあり、行政と地域が連携して新しい国づくり、地域づくりをしています。その成功例が、まさにイタリアです。

須坂で今、皆様にご協力いただいて総合計画を作っていますが、これこそがまさに須坂が地域の市民の皆さんと連携してどれほど素晴らしい未来をつくっていけるか。これが、単なる作って終わりの答申や報告書ではなく、総合計画をベースに行政がしっかり尽力していただき素晴らしい地域の時代がひらける。私たちはそのスタート地点に立っているという認識で、目的を持って答申案を審議してきました。

おかげ様の完成の域に至りまして本日が最後の審議会となりました。皆様のこれまでのご協力に厚く御礼申しあげます。そして最後のまとめという段階となりました、よろしくお願ひいたします。

政策推進課長

それでは、次第3の審議事項につきまして、会長に進行をお願いいたします。

(3) 審議事項

① パブリックコメント実施後原案への修正対応について

会長：

では、次第の項目に沿ってすすめてまいります。審議事項「(1)パブリックコメント実施後原案への修正対応」について、事務局より報告をお願いいたします。

事務局：

それでは、これまでの計画原案の変更点について、資料1をもとに報告をさせていただきます。第5回審議会におきましてご審議いただきました委員の皆様のご意見を踏まえた変更点と、パブリックコメントでのご意見により変更しました内容につきまして説明します。

(資料1に沿って説明)

会長：

ただいま事務局より報告がありましたが、ご質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

会長：

パブリックコメントの対応を含め、内容の再確認をしていただき修正してもらいました。

後ほどの資料説明も含め、お気づきの点がありましたらご意見をお願いします。

特段ご意見がなければ先にすすめさせていただきます。次の「(2)答申内容の確認」について、事務局から説明をお願いいたします。

② 答申内容の確認

事務局：

それでは、「(2)答申内容の確認」につきまして、資料2-1から2-4までそれぞれの資料に沿って説明させていただきます。前回第5回審議会におきまして、答申内容の構成を確認していただきまして、その構成に沿った答申案を説明させていただきます。

(資料2-1～4に沿って説明)

会長：

ただいま事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

会長：

第3次国土利用計画は、最終的には長野県の方から計画について修正実行を踏まえ、内容がよろしければ了解と解釈してよろしいのでしょうか。

事務局：

県の方からご意見をいただいて、それに従わなければいけないというきまりではありませんが、資料のとおり市の対応を報告いたします。

会長：

それは、県の国土利用計画と市の国土利用計画が整合しているかという視点でしょうか。

事務局：

そういう視点です。

委員：

以前の審議会でも質問させていただきましたが、施策の責任をもつ担当部署を明記した方が良いとお伝えしましたが、明記されていますか。

事務局：

いただきましたご意見を反映しまして、資料番号2-2「第五次須坂市総合計画」の31ページ以降の前期基本計画の各施策に主担当を明記させていただきました。主担当の位置付けは、「施策」の中の「取組み」のそれぞれの担当部署をとりまとめ、施策指標の目標達成に向け施策を推進する部署と位置付けています。

会長：

ご意見が反映されていて、市民の皆さんが分かりやすく、どこの部署が主担当で推進するか分かるようにというご指摘ですので、反映されているということでご了承願います。

委員、ご意見いかがでしょうか。

委員：

今までの議論を踏まえた上で意見が反映され、まとまった計画となっていると思います。

③ その他

会長：

では続きまして、審議事項にはありませんが、その他として本日配付しています「第五須坂市次総合計画の進行管理について」事務局から説明をお願いいたします。

事務局：

本日追加の資料で、「第五須坂市次総合計画の進行管理について」説明させていただきます。

これまでの審議の中でも、計画策定後の進行管理を適正に行っていただきたいとご意見を何度かいただいておりますので、その考え方を踏まえまして現時点での進行管理の考え方を説明させていただきます。

会長：

ただいま事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

会長：

PDCAサイクルをもとに説明していただきましたが、どこから始まるのか分かりにくい
ため、図の「計画 (plan)」に①、「実行 (do)」に②、「評価 (check)」に③、「改善 (act)」に④を入れた方が直感的に分かりやすいと思います。それを常に繰り返し行っていくということを念頭においていただければと思います。

また、最近国や自治体において「事業仕分け」を行っており、須坂市でも実施するとお聞きしました。どこかに事業仕分けについても言葉として入っていると、惰性で事業を行なうのではなく、市民の皆さんの意見を反映させて、英断を持って中止することもあり得るという考えも入れてはいかがでしょうか。言葉として、外部評価のところにも「事業仕分け等も含めて」行うことを入れてはいかがでしょうか。

総務部長：

「事業仕分け」につきましては本年度実施しますが、外部評価の視点に立った考え方
ですので、外部評価の考え方の中に事業仕分けの手法も組み入れていくという考えを含
めています。

会長：

コンセプトとして入っているということですね。

委員：

事業評価について、いつやるのかが表記されていない。毎年やるのか2年単位で行う
のかなど、どのような考えでしょうか。

事務局：

事務事業評価とあわせ外部評価につきましては、毎年実施しています。年度単位で実
施しています。

会長：

年度単位で実施することも明記されてはいかがでしょうか。

積極的に「実行 (do)」、「評価 (check)」を繰り返していくことを示して
いただきたいと思います。

委員：

前期基本計画は5年の長期間にわたるわけですが、市職員ですと異動もあり、流れや経過がわかる人間がいなくなってしまうことがないように配慮していただきたいと思っています。

総務部長：

職員の異動等もありますが、きちっとした総合計画を策定していただいたわけですし、それぞれの取組みの指標も27年度の目標値達成に向け毎年度の年度目標値に分解しまして、先ほど説明いたしました進行管理を適正に行いまして、異動があったとしても弊害のないよう体制を整えて推進してまいります。

委員：

一貫して計画の進行管理の流れをよめる人間を置いて欲しいということです。

総務部長：

総合計画につきましては、今後職員全員が目を通し、目標に向かって必ず職員一人ひとりが努力していくべきだと考えています。単に計画を作って終わるのではなく、常に目標数値として職員が認識していく計画としていただいたと思っております。ご意見のとおり分野ごとに専門の職員も必要だと思いますので、その点につきましてもあわせて対応してまいりたいと思います。

委員：

県の総合計画の評価も第3者により行っています。評価のための評価が若干感じられます。指標で例えば、現状100を200にするという計画があったとしますと、1年経っても2年経っても100という計画が多い、進行が進んでいかない、その間の評価をどうつけるかという議論がされています。県の例をみますと、プロセスの評価と結果の評価が必要であると思います。事前にプロセス部分の評価につきまして、評価する前に資料等を事前に準備をしておくべきだと思います。そうすることで、効率の良い評価会議になると思います。

企業の売り上げのような指標は行政の総合計画ではなかなか難しいと今回の策定作業で感じましたので、プロセス上の評価については事前に準備しておく必要があると思います。こういうプロセスを評価して欲しい、我々はこれをやったのだと主張しておくとも効率的に評価が進むのではないかと思います。

副市長：

目標設定が定量的な部分と定性的な部分があり、行政の仕事は売り上げのように数字を出せる部分が少なく、指標設定は非常に悩ましい部分であることは事実です。

今回答申していただきます計画の中に指標をあげていますが、できるだけ定量的に測定できるものをあげるとともに、他自治体と比較できるベンチマークとして、あるいは国全体の動向の中の位置付けが現状と将来と把握できる指標をできるだけ設定してき

ました。

ご意見のとおりプロセスも大事だと思っておりますので、試行錯誤ではありますが今後取組んでいかなければならないことですので、事前に評価していただく方に対しまして分かりやすく説明しましてご理解していただいた上で評価していただけるよう努めてまいります。

会長：

これまでの審議事項を含めまして、ご意見がなければ審議事項は以上ですので、進行を事務局に戻します。

政策推進課長：

ありがとうございました。ここで、副市長より御礼申し上げます。

副市長：

本日の第6回審議会を持ちまして審議をすべて終了していただきましてありがとうございました。

昨年の7月2日から1年3カ月の長期にわたり大変ご多忙の中お集まりいただきまして、ご審議いただきまして誠にありがとうございました。この間、6回の審議会、3つの分科会ごとに4回開催していただきました。その中で、117人会議やパブリックコメントでの市民の皆さんのご意見を含めまして、将来の須坂市の在り方、5ヵ年計画についての真摯なご討議を賜りましたことに対しまして心から御礼申し上げる次第でございます。

人口減少や少子高齢化、世界経済の大きな変化、環境問題などの中で持続的発展可能な須坂市を作っていくことは我々行政の責任であります。基本計画をはじめ国土利用計画をベースにしました様々な施策を総合計画に入れていただきまして、都市づくりをすすめる、あるいは都市経営という視点で財政的にもしっかりと安定した経営をしていく視点でこのような計画を策定していただきました。

評価につきましても、適切な評価ができるようなベンチマークを作るようにというご意見も踏まえ、進行管理を行なってまいります。今後はチェックが非常に重要となってまいります。市民の皆さんの幸福の最大化を図ることを、この総合計画の実施を通してやっていかなければならないと事務局として感じております。

長きにわたりご審議いただき、素晴らしいご意見を賜りまして重ねて御礼申し上げます。審議会最終回の御礼のご挨拶といたします、ありがとうございました。

政策推進課長：

ただいまより、いったん休憩とします。休憩終了後市長がまいりまして、審議会を代表いたしまして会長から、答申を賜りたいと存じます。

《休憩》

(4) 市長への答申

政策推進課長：

それでは、審議会を再開いたします。

取りまとめていただきました答申を会長の方から、答申を賜りたいと存じます。

会長：

それでは、諮問を受けまして、昨年から審議してきました第五次須坂市総合計画及び第三次国土利用計画（須坂市計画）を市長に答申させていただきます。

第五次須坂市総合計画（基本構想・前期基本計画）、第三次国土利用計画（須坂市計画）について答申します。

平成21年7月2日付け21政第29号において第五次須坂市総合計画（基本構想・前期基本計画）、第三次国土利用計画（須坂市計画）について諮問を受け、それぞれの計画について以下の視点で審議会全体会及び、「安心・安全部会」、「元気部会」、「交流部会」の3つの専門部会において慎重に審議を重ねてまいりました。

また、「117人（いいなにん）会議」や「すぎかまちづくりミーティング」などで多くの皆さんにもご協力いただき、さらに各種アンケート調査やパブリックコメントを通じ多数のご意見をお寄せいただき、市民の皆さんの声を計画に反映させることができました。

「第五次須坂市総合計画（基本構想）」については、本市をとりまく社会環境や、地理的・自然的・社会的な特性を踏まえ、本市の目指すべき方向を的確に捉え、かつ市民の皆さんにわかりやすく説明しているか、という視点に立ち審議しました。

「第五次須坂市総合計画（前期基本計画）」については、各施策が基本構想で示す方向に即しているか、目指す市の姿を実現するための手段となっているか、市民の皆さんに分かりやすい表現や構成になっているか、という視点に立ち審議しました。

「第三次国土利用計画」については、本市をとりまく社会環境や、地理的・自然的・社会的な特性を踏まえ、総合計画の将来像実現に向け、土地利用の面から市土の健全な発展、安全で快適な市民生活の確保をめざした計画となっているか、という視点に立ち審議しました。

審議の結果を別冊のとおり答申しますので、その実現に万全を期してください。

別冊「第五次須坂市総合計画（基本構想・前期基本計画）」「第三次国土利用計画（須坂市計画）」を答申します。

なお、計画の推進にあたっては、次の点に留意されるよう要望します。

「第四次総合計画の成果及び課題を踏まえた第五次総合計画の推進」

「共創による総合計画の推進」

「新しい都市経営」

「市民の皆さんに分かりやすい計画」

以上のとおりです、どうぞよろしく申し上げます。

政策推進課長：

ありがとうございました。それでは市長より御礼申し上げます。

市長：

ただいま答申をいただき、審議委員の皆様には長期間にわたりご審議をたまわり本当

にありがとうございました。

この計画は、遠藤教授に会長を、小澤部長、土本教授、小山校長にそれぞれの専門部会を担っていただき、市政に対して高い関心を持ち、自ら率先して活動されている2人の公募委員、そして各分野の中心的役割で活躍されている10人の委員の皆様と多くの市民の皆様の英知と想いを結集して作られたものです。この答申内容は最大限尊重させていただき、12月議会に提案するとともに、計画内容と今後の進捗よく状況を市民の皆さんに分かりやすくお伝えしていきます。

第五次総合計画の計画期間は来年の4月からですが、私はすでに昨年7月2日から始まっていると考えています。来年4月からはさらに、答申いただきました計画の達成に向け、進行管理を行ない将来像実現に取り組んでまいります。

答申いただきました総合計画の冒頭にもありますが、総合計画で目標になるまちの将来像を示し、市民の皆さんとの「共創」による将来像の実現を果たす共通の約束として位置づけ、私たち一人一人がいきいきと輝き、「ほんもの」をさらに磨きあげ、この「ほんもの」による魅力があふれる須坂市にしていきます。

答申でいただきましたなかでいくつか留意事項をいただきましたが、「第四次総合計画の成果及び課題を踏まえた第五次総合計画の推進」につきましては、成果を踏まえ推進してまいります。

「共創による総合計画の推進」につきまして、「共創」という言葉は、会長より教えていただきました言葉で、市民の皆さんの中にも「共創」の言葉が根付いてきています、大変ありがたく思っておりますしこれからも共創のまちづくりをすすめてまいります。

「新しい都市経営」につきましては、行政もこれからは行政経営、都市経営の観点が必要で大切であると思っております。最小の経費で最大の効果は企業と同じ視点で取り組むべきと考えています。この中で、自然をはじめ、歴史や文化、人材やさまざまな活動団体などの「ひと・もの・かね・情報」といった地域資源を最大限に活用することは、まさに経営の視点を大事にしていくことが大切です。須坂には「ほんもの」の財産が多くあります、これらを大事にしていくことも大切です。

「市民の皆さんにわかりやすい総合計画」についてですが、これまでの総合計画は難しい言葉で作り、ともすればいったん作れば机上に置くだけということになりがちでしたが、わかりやすい計画を作ってください市民の皆さんにご理解していただき一緒に共創のまちづくりをすすめてまいります。今朝たまたまこういう言葉が目にとまりました。

「夢・理想・目標は実現しないのではなく、夢・理想・目標しか実現しない。」という言葉のみました。本日答申いただきました計画はまさに夢であり理想であり、目標でありますので実現に向かって努力してまいります。

会長をはじめ審議委員の皆様にご心から感謝申し上げますとともに、今後とも須坂市の発展のためにご指導ご鞭撻をお願いいたします。

ありがとうございました。

(5) 市長との意見交換

政策推進課長：

本日が総合計画審議会の最終回となります。若干の時間ですが、審議会でのこれまで

のご感想や今後のまちづくりについてを含めまして、市長とご歓談をいただきたいと存じます。

委員：

今回の須坂市の総合計画策定では、117人会議からはじまって市民の声をきめ細かく汲んでいることを印象深く感じました。我々もシンクタンクで計画策定に携わることもありますが、事務局の皆さん中心となり審議会・分科会の都度出ました意見を全て吸収され整合性をとった形で取りまとめになり、庁内横断的な労作であると最後読まさせていただきます。

最後は太田委員より出された意見で、今後PDCAによる評価を期限を明確にして行い、最後の評価の時に対応できるように日頃の行動の記録づくり、プロセス評価を行なうことにより生きた計画になり、次なる夢を実現できるものとなります。

委員：

1年3カ月にわたり参加させていただき、勉強させていただきました。

まさに市町村の時代に入っていると実感しました。県でも各種計画を策定しますが、県域では広すぎて現実的に住民の声が伝わらず、意見が反映されないことがあります。この計画策定では117人会議など市民目線を非常に大切にしている文章にさせていただいて、真摯な姿勢が文章から脈々と伝わってくると感じました。今は計画の時代ですが、大事なスタートをされたかと感謝します。

看護学校としましては、若者が住みやすく働きやすいことが、これから市町村が生きていくには重要だと思います。計画を作る際には、こういう過程で作り、こういう場面で若者は意見を述べるのがとても大事だと感じました。ありがとうございました。

市長：

ありがとうございました。

看護学校の生徒の皆さんには、色々な地域づくりに携わっていただきましてありがとうございます。

委員：

こちらこそありがとうございます。

地域を知って、地域の中で育っていくことが大事だと常々申しています。

委員：

今の世の中、生みっぱなしというのが多くなっています。これをいかに育むかというのが大切です。よろしくお願いします。

委員：

色々な意見を柔軟な姿勢で取り入れていただいて良い計画ができたと思います。ただ、皆さんのご意見でも出ていますが、これは市民一人ひとりが計画内容をよく知っていたら、市の職員が内容を承知して、それがつながることで良い形になると思います。私

たち福祉に携わる立場ですが、福祉に関しては現場を持っています。この計画を市民の皆さんにも色々な機会を通じてお伝えし、何かあった時にはこれを持って市役所の市長のところに行くようにと話していきたいと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。

市長：

社会福祉協議会の場合は、様々な場面がありますのでまたお知らせいただきたいと思っております。

委員：

微力ながら、はじめて須坂市の計画策定に携わらせていただきました。

策定で感じたことは、市民の皆さんの関心が高いことには驚きました。パブリックコメントなどでの意見も多く、それを市の方も真摯に受け止め計画に盛り込んでいただいたことは大変勉強になりました。当社でもこのような計画を作りますが、どちらかと言うとトップダウンです。やはり行政の中心は市民の皆さんだと感じました。企業の中においてもこのような考え方をもっと取り入れるべきかと感じ、勉強させていただきました。

ありがとうございました。

委員：

何も分からない状態で参加させていただきましたが、自分自身が毎回勉強させていただきました。

今、地方分権の時代となり「地域力」が試されている時期で、市民が市政に興味を持たざるを得ない時代になってきていると思います。そのような中で、本当に分かりやすい構想が出来上がったことが嬉しく思います。事務局の皆さんの並々ならぬ努力を身にしみて思います。

先ほどから皆さんからも意見が出ていますが、PDCAでの外部評価につきまして、かつて外部評価委員をやらせていただきましたが、あまりに行政の皆さんが自分のやった業務に関して奥ゆかしい、もっと評価してもいいのにと感じる場面が多くありました。行政の皆さんも自信を持って「こんなに私たちは努力していますので、市民の皆さんも協力して一緒にやってきませんか」という意気込みを、これからはどんどん見せて欲しいと思います。私もそこは見極めていきたいとも思います。今後もよろしくお祈りいたします。

市長：

励ましのお言葉ありがとうございました。

先日県外に行きまして、委員の人的ネットワークの広さを感じました。

委員：

様々な方のご意見が多く取り入れられて、今回の計画には特に平仮名が多く優しい表現で原案を作ってくださいました。この表現が市民の方々の心に届くのではないかと強く感じています。

総合計画ということで、全般的に進んでいきますがチェックの段階で一つ一つの項目

の進行管理をすることはもちろんのこと、全体をみた時にぽっかりと穴があいて見落とされていることが懸念されますので、その点も注意して進行管理していただきたいと思っています。

ありがとうございました。

委員：

一番最初の審議会の際に意見を述べさせていただきましたが、地方都市の総合計画という一辺倒のものになってしまうので、須坂市らしい総合計画を作って欲しい、みんなで作りましょうと話しましたが、内容的にその通りにできたことが嬉しく思っています。

大勢の意見が盛り込まれながら、先ほど市長が申しましたが「共創」の内容になってきていると思います。みんなの意見が詰まったこの計画を、これからは市民一人ひとりが見ながら目標に向かっていくことが必要だと感じました。

先ほど総務部長のお話にもありましたが、市職員は携帯しながらまちづくりをすすめていくと力強いお話もいただきましたが、須坂市の一市民として私もこれをもって話のねたに使っていきたいと思います。

委員：

計画策定に携わらせていただきましたが、大変幅広い分野についての計画ということですが、各町が本来このような計画を作っていくべきかと思いますが、なかなか町単位での計画を作ってまちづくりをすすめることは難しいです。須坂市の総合計画ということでしっかりとした計画ができましたので、我々もこれをもとにまちづくりの一環として携わっていきたいと思います。

ありがとうございました。

市長：

大所高所からのご意見ありがとうございました。

各町の計画と様々な面で総合計画も整合させることが必要かと思っています。

委員：

計画策定に携わらせていただきましたが、全てにおいて新鮮で、こういう会議があって、こういう皆さんの働きがあって市が成り立っているということを知り、勉強させていただきました。

補導員会としましても、この計画のことをお伝えしながら頑張っていきますし、町の皆さんのお役になっていくことを強く感じさせていただきました。

ありがとうございました。

市長：

ありがとうございました。

一時保健補導員会について新聞記事となっていました。会長さんをはじめ新役員へのバトンタッチの際に色々あるのではと心配していましたが、保健補導員会の活動はこれ

までの50数年にわたって厚みがありますので少々のおわさや報道には全然屈しないで各地区が頑張っていると聞きました。少しのことでは崩れない組織です。

保健補導員だよりも拝見しましたが、素晴らしいパワーあふれる文章ですので、メールマガジンで紹介させていただきます。

委員：

このような計画の策定、実践が次の世代の子ども達に引き継ぎ、一番の実践は次の世代の人達ですので、今の大人がしっかり子どもに教える部分が必要です。

高校を考える会でも言いましたが、早くから職業意識を持った子どもに育てることが必要だと言いました。本気になって職業意識を持った子どもをみんなで育てることが、小中学校からも大事だと思います。松下村塾には地域学習が脈々と続いている。それがまちづくり、人づくりにつながっていく。須坂市にも骨太の芯があるものを持っているようになるべきです。須坂からも大企業の役員が出ています、小さい頃から職業意識を教えていくことが将来のまちづくりの人材になっていく。

市長：

関係する皆さんに高校再編について考えていただき本当に素晴らしい高校像ができていると思います。市民の皆さんのバックアップもありをはじめ、市や県だけでなく市民の学校であるという気持ちでつくっていくという気持ちでいます。

また、来月首都圏を中心に活躍されている方との懇談を行ないますが、郷土を離れている方々には郷土への想いが深い方が多いと今回改めて感じました。今後も人と人とのネットワークを広げ、須坂市からも参加していただきコミュニケーションを深める中で地域の活性化につなげていきたいと考えています。その他にも昔から須坂市に縁のある方が多もおり、学者も多く輩出していますし、郷土に対する想い地域ではないかと思えます。

委員：

審議委員の皆さんの様々なご意見をお聴きすることで私自身勉強となりました。色々な基本計画を見ますと、専門書のように堅苦しいものですが、今回策定しました計画は本当に市民の皆さんから意見を聞き、私たちのちょっとした意見も取り入れていただき、手作りの計画だとうれしく思っております。

これが来年4月から実践されていくわけですが、嬉しいという感じがします。言葉も内容も愛着があるという感じがします、ありがとうございます。これが実現していった暁には、須坂に住みたくなる人が多くなるのではないかと期待します、行政の皆さんが計画を実践していただきますよう、そして私たちも微力ではありますが実現できるよう協力していきたいと思えます。

ありがとうございました。

市長：

ありがとうございます。

会長さんには既に様々な面で実践していただいていますありがとうございます。

委員：

総合計画策定に加わらせていただきましてありがとうございます。

私も須坂市以外に出る機会が多くありますが、よく聞く言葉として「須坂はいいな。」「須坂はすごいな。」と聞きます。何がよいのか、すごいのかと言いますと、須坂は色々なことをやって、周りから呼び込んで楽しい町だと聞きます。しかし逆に、須坂に住む人の中で、「須坂はだめだ」と聞きます。そういう中で私が思うに、やはり心の豊かさ、何でも人にお願ひしやってもらうのではなく、我々でまちを作ったり楽しい事を考えたりすることが幸せにつながっていくのではないかと。まずはできることからみんなでやっ
ていこう、ということがまちづくりにつながっていくのではないかと。

子どもからお年寄りのためになる良いまちづくりをしようとする多くの人の意見を聴いてできた総合計画ですので、この計画の目標を持ちながら市民の皆さんとともにより良いまちづくりをすすめていきたいと思ひます。

市長：

体育協会において長年ご尽力いただきましてありがとうございます。

体育施設の利用だけでなく整備にもお気遣いいただきましてありがとうございます。

これまで委員の皆さんに熱心にご審議いただき、多くの意見が出していただけたのは会長の議事進行の賜物であったと思ひます。

それぞれの皆さんの発言しやすい雰囲気、発言を受け止めてくださり会長と審議委員の皆様の共創による総合計画でもあると思ひます。

会長：

審議会の委員の皆さんお一人お一人が須坂市の代表という方の意見の結集により今回の答申書ができたということが、市役所がつくった計画ではなく、市民の皆さんだけの意見ではなく審議委員の皆さんの意見とが合体した答申書になったのではないのでしょうか。「共創」の意識が定着してきた成果だと思ひています。委員の皆様のご協力に心から御礼申し上げます。

「地縁」「血縁」という言葉のほかに、最近「髄縁」というのも大事だと聞きます。例えばこういった会議などで知り合った関係が、また新しい社会の力となっていきます。皆様とこの審議会を通じて関わりました様々な時間を私自身の宝としてこれからも大切にしていきたいと、御礼申し上げます。

なぜイタリアはそんなに元気かといひますと、やはりひとつは教育です。地域をあげて教育を非常に一生懸命取り組んでいます。その成果が社会の活力に結び付いています。イタリア全土ではまだ失業率は10%ほどですが、今回行きましたベニスやパドヴァなどは特段中小企業が多く失業率は4%くらいの高い活力を持っています。地域の農産物を地域の小学校の給食に使い、食育に取り組んでいます。子どもの成長と地域が密接に関わっています。

今の須坂には共創の概念が息づいていると感じます。須坂の市民の皆さんが元気だと感じます。市民の皆さん一人ひとりが充実した市民生活を営み、ここに住まうことが素

晴らしい人生の意義を持ち、ここに住まうことに誇りを持って「ほんもの」を大事にし、そういうものを追及する社会を構築していく。これが計画には盛り込まれています。また、新しい時代の未来像が盛り込まれた委員の皆さんの英知の結集、市民のご協力の成果だと思しますので市長さんにはこれを十分活用していただき素晴らしい市政を展開していただきたいと願います。改めて委員の皆様と事務局への事務的なご足労をいただき御礼の言葉を申し上げまして挨拶とかえさせていただきます。

事務局：

本日ご欠席の委員の皆様からも審議会最終回にあたりまして、ご意見をいただいておりますのでご報告させていただきます。

神林委員より、人口増加への対策についてご意見をいただきました。基本構想のグラフでは全国や長野県、北信地方も人口減少となりますが須坂市だけでも人口増加となる独自の取組みを是非行っていただきたい。そのためにも駅前や中心市街地の活性化に取り組んでいただきたい。

その他、広域連携について施策で述べていますが、県境の須坂市なので群馬県との県外交流にも取り組んでいただきたい。

まちづくりの取組みに際しては、先人の知恵や発想を習って取り組んでいただきたい。などのご意見をいただきました。

石原委員からもご意見をいただきました。

須坂市行政との連携の下に安全で質の高い医療を平等に提供するという医療体制の確保・実現は、医師会の社会的使命であると思います。

今後も保健制度の適正な運用が地域医療を守るという意識を、市民の皆様と共有していく取組みがさらに重要であると考えられます。

最後に、丁寧に説明していただいた関係各課の皆様及び、毎回多くの資料についてご苦労いただいた事務局の方々に深謝致します。

以上です。

政策推進課長：

1年3カ月にわたる長い審議に貴重なお時間を割いていただき大変ありがとうございました。市に賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

(6) 閉会

終了 午後0時5分

以上